



花をもつおばあさん



秋の市場 1981年

大井戸百合子

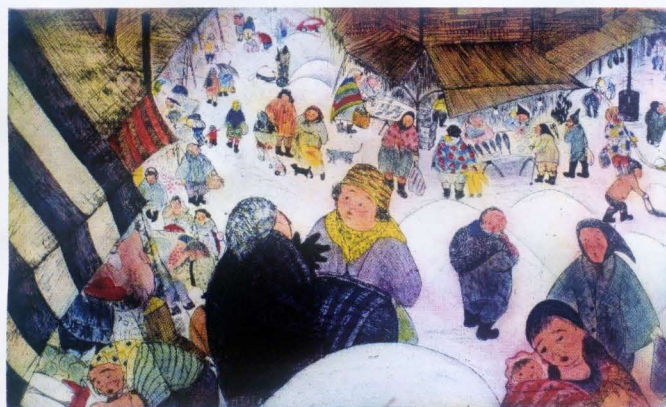
銅版画展

— 北の市場と女たち —



Yuriko Oido

1966年北海道教育大学札幌分校卒業。1974年春陽会初出品。北星学園余市高校、小樽水産高校美術非常勤講師。1978年春陽会新人賞受賞。1979年文化庁第13回現代選抜展。1982年春陽会会員、全道展会員。1986年絵本「ぼくとアルベス兄ちゃん」厚生省児童福祉文化奨励賞受賞。1985年カナダ国立図書館(オタワ市)で個展開催。クアラルンプール、シンガポールなど海外各地で個展開催。1988年「チロをさがして」(福武書店)。1992年銅版画集「北の市場」。1994年「森のこもりうた」(福音館書店)。1996年「ふゆのいちばへおかいもの」(福音館書店)。2009年「オロロンとぶ島」(スモークハウス)。2010年「ふゆのおがわ」(スモークハウス)。2013年絵本「大井戸ざくら」(スモークハ



冬の市場 1986年



雨降り 1990年

銅版画家・大井戸百合子は、1944(昭和19)年札幌に生まれた。北海道教育大学札幌分校で油彩画を専攻し、同大卒業後、版画を手掛けるようになる。幼いころから7人兄妹の末っ子の百合子は、兄や姉の読む本や雑誌の少し大人びた絵の世界に興味を持ち、自分でも挿絵を真似て描いていた。

それらはほとんどが鉛筆による線描で、当時から、将来は文章と絵を組み合わせたいと夢見ていた。線描を生かすには、銅版画が適していると感じ、大学卒業後に始めた銅版で全道展と春陽会に出品し、数々の受賞を経て両会の会員に推された。

やがて北海道新聞文化部の目に留まり挿絵に起用されたことをきっかけに、詩・小説の挿絵の注文の依頼に応じてゆく。日本海に面して暮らす女性のシリーズはそこから広がっていった。

ちょうどその頃、北海道立小樽水産高校の美術家講師の職を得て、毎週小樽へ行くことが始まり、学校の帰りには、まだ活気のあった手宮界隈を見てまわり、次々と作品が出来ていった。

小樽の冬の手宮市場に取材した北の女たちの連作は、もともと百合子の母の実家が日本海の手宮の近くだったことから、自身の幼い頃の記憶と重ねて生み出された。懸命に働き、仲間と屈託なく笑い助け合っている市場の女たちの逞しく、強い姿は、幼少期に見た母や叔母たちの談笑する姿を思い起して描いた。

百合子は、小樽の市場を舞台に繰り広げられる題材を、その地域と人々に誠実に、愛情深く向き合い、重厚かつ自在に表現する。単純化された人物のフォルム、ユーモラスな表情は格別で、天性の表現密度の高さ、文学的叙情性をも感じさせるものだ。厳しい自然とそこに生きる女性たちを組み合わせた作品は、観る者に生の根源を問いかけてくる。

本展は、小樽の手宮市場の女たちの生活を主に描いた、大井戸百合子の心温まる銅版作品のほか、数々の絵本原画、制作工程、50年間の美術活動を紹介します。毎日を精一杯遅く生きている女性たちから、生きていく勇氣が感じられることでしょう。